



▲広さやお好みの雰囲気に合わせて、誰もが心地よく使える空間づくりを。便器の取り替えから内装まで1日で行なうプランもあります。

▼人を感知して自動で優しく点灯する便器。深夜のトイレで眩しさに悩むこともありません。



RESTROOM



坂本 一郎  
積水ハウス  
GMパートナーズ株式会社

「お客様の暮らしや価値観に寄り添ったご提案」を信条に、数多くのマンションのリノベーションやリフォームに携わっています。

水回りの新調と言えばキッチンがまず頭に浮かびますが、坂本さんが最も重視されているのは、意外にもトイレだそうですね。  
坂本 リノベやリフォームの記事でメインとして取り上げられることは少ないのですが、お客様からの設備更新のご要望がいちばん多い



## 誰もが毎日使う水回りは 優先順位を見極めて 納得のリノベーションを。

＋  
イマドキ  
リノベの  
処方箋  
16

お住まいの中で、ここはそろそろ新しくしたいな…という時に

真っ先に候補に上がるのは、水回りではないでしょうか。

経年による老朽化、家族のライフステージの変化など

きっかけはさまざまと思いますが、

毎日使う場所が快適になれば、暮らしの快適さもアップ。

そこで今回は、サニタリー&キッチンのリノベについて

多くの事例を手掛ける積水ハウスGMパートナーズの

坂本さんにお話を伺いました。



のはトイレなんです。また、水回り全般のご相談をいただく際も、私が最初におすすめるのは、トイレの更新です。他の設備と比べて圧倒的に使う頻度が高い、というのがその理由です。一日中ご自宅にいると少なくとも5〜6回、ご高齢になると回数さらには多くなると思いますが、よく使う場所を快適にすると、その後の暮らしの満足度がぐんとアップするのです。  
また、ご家族だけでなく、お客様が来られた時にも使われることを考えると、トイレはセミパブリックスペースと言えます。皆さんもご経験があると思いますが、素敵なレストランやシヨップでトイレが今いちだと、ちょっと残念な気持ちになりますよね(笑)。スペース次第ですが、カウンターを設けて、センスの良い小物や鏡をディスプレイすれば、「トイレ」が「レストルーム」にバージョンアップします。誰もが心地よく使うことができる魅力的な空間づくりをすることで、住まい全体の印象も高まります。

よく使う場所ほど更新後の満足度が高いというのは、とても説得力があります。便器の選び方などについては、いかがでしょうか。  
坂本 タンクレスにすると、生活感のないスタイリッシュな空間に見えるのでおすすめです。ただ、構造上タンクがなくなると分だけ広くなるわけではないので、その点はご留意ください。また、超節水型の便器なら、水の量だけでなく水を処理するために使う電気の量も少なくて済むので、費用削減と環境負荷軽減の両面でメリットがあります。  
なお、床の仕上げに使われているクッションフロアや塩ビタイルは、経年による変色や跡が残っていることが多いので、便器と同時に取り替えることをおすすめします。さまざまな素材やデザインがあるので、インテリア性アップにもつながります。それから、私がよくご提案しているのが照明計画です。すみずみまで明るく照らすと、清掃グッズなど見えなくてもいいものまで見えてしまいますよね。必要な部分だけを照らす「光のポイント」をつくるよう設計すれば、陰影のある魅力的な空間演出になりますし、夜中にトイレに行った際に、明るさで目が覚めてしまうこともありません。

キッチン回りに関しては、お客様にどのようなアドバイスや提案をされているのでしょうか。

坂本 お問い合わせが多いのは、水栓、コンロ、換気扇、この3つの不具合です。こうした設備については規格が統一されているので、部分的により機能の優れたものに交換することをおすすめしています。

